

序 文

獣医臨床腫瘍学の内容は、内科学、外科学、病理学、臨床病理学、画像診断学、放射線学などの様々な科目が関わり、これまでは各科目で部分的に教えられてきました。本科目が獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに加わり、学ぶべきコアの内容が決められましたが、それは他科目に振り分けられた結果、肉をそぎ落とされ骨と皮しか残っていない断片的な内容でした。

「これでは、一貫した教本とならない。骨（コア）に肉（アドバンス）を戻して充実した獣医臨床腫瘍学の教本を創ろう！」

このような流れで、日本で初めて独自に創った獣医臨床腫瘍学の教本ができあがりました。肉が付きすぎている、逆に足りないと感じるところもあり、スマートな体型（体系）ではありませんが、読破し理解していただければ、臨床で腫瘍を診るための基礎を十分に身につけることができるはずです。

なおモデル・コア・カリキュラムの項目や一般目標、到達目標は、本書の編集・執筆者達で再度検討し、その改訂を見据えたものとなっています。

今後、コア・カリキュラムや獣医師国家試験の改訂に対応し、また学生と先生のご意見を取り入れて、さらに分かりやすく役に立つ獣医臨床腫瘍学教本を創って行きたいと切に願っております。

2018年5月

編集者代表 廉澤 剛